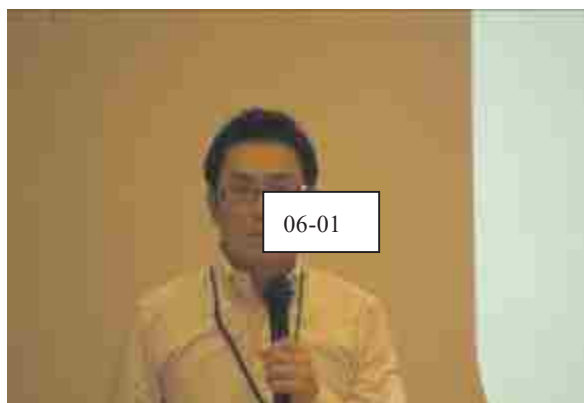


# 新学習指導要領の求める命の教育の実践 ー特別活動において学校飼育動物の取組を通して育てる力ー

若林 彰 先生（帝京大学教育学部初等教育学科教授）



## 1 新学習指導要領における特別活動の目指す資質・能力の視点と特別活動への期待

来期の新学習指導要領では、特別活動を指導する上での重要な視点として「人間関係形成」「社会参画」「自己実現」の3点をあげている。それらを重視した特別活動で育まれる資質・能力は、社会に出た後の様々な人間関係の中で生かされていくとされている。

また新学習指導要領では、特別活動に期待することとして以下の4点を挙げている。

- 学校生活を送る上での基盤となる力を育成し、社会で生きて働く力を育むこと。
- 協働性や異質なものを認め合う土壌を育むこと。
- 学力の向上に寄与すること。
- 学級文化・学校文化の醸成へとつながり、我が国の教育課程の特徴として海外から高い評価を受けていること。

以上の事は、特別活動がこれからの教育の中で大いに期待され、かつ全力で取り組んでいくべきことであるが、学校飼育動物の取組の中からも、それらは大いに深められると考えている。

## 2 特別活動において学校飼育動物の取組を通して育てる力

特別活動の指導内容には、「学校飼育動物」に関わる文言が直接表記されている箇所はない。しかし、学校飼育動物と特別活動は、実践活動として密接な関わりを持っている。

具体的には、児童会活動（飼育委員会）において、児童が主体的に学校飼育動物に関わる活動を行っている。また、学級の活動でも、学級活動(1)における係活動で「いきものがかり（飼育係）」等で児童が実践的に取り組んでいる。

児童会活動は、異年齢集団活動を重視し、学校生活の充実と向上に向けて、役割を分担し、協力しながら自主的、実践的な活動に様々な取り組んでいくものである。その中で、飼育委員会等では、学校飼育動物との関わりから育みたい資質や能力として、「生命尊重」「優しさ」「協力」「思いやり」「責任感」「観察力」「自信」などを挙げたい。

ここでは飼育委員会の具体的な活動の中から、その資質・能力を育む場面を考えてみる。

私が校長として勤務していた小学校の実践からお話する。

この実践例では、飼育委員会は、委員会全体で動物飼育への責任をもっているものの、飼育委員一人一匹ずつ担当を決めて世話をしている。（責任）

他学年や違うクラスの人間関係の中での活動では、動物の世話は全構成員で協力し合って進めていく（協力）ことが大切であり、生命をもった生き物の世話をするためには、責任持った活動が必要となってくる（生命尊重・責任）。

放課後、授業が終わった後、小屋やゲージの清掃に駆けつける児童の姿が見られること

も多い。これは飼育委員が主体的に取り組んでいるものであり、まさに「責任感」の発露の場であると考える。

また飼育委員会では、上級生が下級生に動物の飼育方法や愛情のかけ方等について伝えていく（優しさ・思いやり・責任感）活動がある。

新年度になると、新しい飼育委員は、昨年度、飼育委員として活動していた上級生から、うさぎの抱き方、餌の与え方、掃除の仕方等を丁寧に教えてもらう。

新しい飼育委員がモルモットの優しい抱き方などを上級生に見守られながらおそるおそる練習しているところである。

この活動では、動物への思いやりや優しさを育むことは言うまでもないが、上級生の下級生に対する思いやりや優しさも育まれている。当然、下級生は上級生への憧れを持つことになる。

これは、児童会活動が重視している異学年活動として極めて重要な取組である。

また、児童会活動は、自治的活動を重視している。それは自分たちの手で自分たちの学校を楽しく充実させる活動である。

児童会活動の委員会活動では、当番的活動と創造的活動がある。しかし、一般的には当番的活動のみに終始している委員会見られることも多い。例えば運動委員会では、体育倉庫の掃除などを子供たちで行い、自分たちの手で学校を充実させている。この活動自体は大いに価値はあるものの、「当番的活動」のみの活動である。ぜひともこれらの活動に加えて、児童による工夫した活動を実施する創造的活動を行わせたい。例えば、運動会の前に「早く走る方法を運動委員が昼休みに教えます」などの創造的活動である。

その点から考えると飼育委員会では、学校での飼育動物の世話をすること、これは当番的活動にあたり、重要な活動であるものの、これだけに終始するのでは児童会活動として不十分である。

そこで、この学校では、飼育委員会による「ふれあいストリート」という、全校児童が飼育動物たちにふれあう創造的活動が企画、実施された。

全校集会にて、飼育委員会から「ふれあい

ストリート」について説明をし、昼休みに全校児童が、動物達と触れ合う活動を行った。そこでは飼育委員会児童が付きっきりで、全校児童と動物のふれあいをサポートしていた。

動物に触れ合うという事は、生命の尊重や優しさ、責任感、観察力などが培われる。また、動物だけでなく児童同士の協力、思いやり、優しさも培われる。さらに、それを企画運営する飼育員児童は、活動を進める中で、様々な場面でやり遂げていく「自信」も培われていった。

飼育委員会による全校児童への動物紹介のこの活動等は、児童による工夫した自主的活動であり、児童会活動としてのねらいに大きく迫るものである（協力）。

飼育委員会の企画によるふれあいストリーートの活動によって、全校の児童たちは、より動物たちを身近に感じるようになり、中休みには動物たちに会いに来る子供たちで大にぎわいとなった。

飼育委員の児童たちは、動物に対する愛着も強く、6年生は卒業記念アルバムに載せる写真として、自分がこれまで世話をしてきた動物達と共に撮っていた。

その笑顔には、苦労もあったが、動物達を優しい思いを込めて世話をし続けてきた自信が満ち溢れていた。

もちろん、飼育委員の児童たちは卒業して中学生になってからも、時々小学校に動物たちに会いにやってくる。

動物たちへの愛着とともに下級生が行っている動物たちの世話を見守りながら、動物たちに会いに来ているのである。

日頃の飼育の中で、観察を通して発見した動物の習性や各動物の特徴、性格などをふまえて世話をすることは大変効果的で（観察力）、ここで培われる観察力は学力向上へと繋がるのは言うまでもない。

学習への意欲が高まり、成績が上がったという児童も多い。

飼育委員会のこの児童は、移動教室の朝も担当しているうさぎに会いたくてやってきた。

そして、移動教室に行く事をうさぎに告げ、餌をあげて移動教室へと向かった。

動物への愛着はもちろんであるが、生命尊重、責任感という資質や能力が育成されてきていることが伺われる。

飼育委員会には、不登校気味な児童、勉強が苦手な児童、あまりしゃべらない児童たちがいることもあるが、動物たちと関わる中でそれらを克服していく例も多くある。

不登校気味だったある児童は、飼育委員となって動物と触れ合ううちに、動物の世話をすることの責任感、生命尊重の思いが強まり、学校に来ることが楽しくなった。

その結果この児童は、毎日楽しく登校することができるようになり、不登校は解消した。

児童が「動物たちの為になること」を自主的に考え、実践していくことは、特別活動として大変重要な活動である（思いやり・優しさ）。こうして児童が自主的に進めていく自らの実践活動に誇りをもち、動物を大事にする気持ちを深めることになる。これらは充実した活動へと深まっていくことになり（自信・生命尊重）、特別活動における学校飼育動物の取組の意義は極めて深い。

## 【シンポジウム使用スライド】

**新学習指導要領で**  
特別活動において育成を目指す資質・能力の3つの視点

**「人間関係形成」「社会参画」「自己実現」**

それらを重視した特別活動で育まれる資質・能力は、社会に出た後の様々な人間関係の中で生かされていく



**新学習指導要領で  
特別活動に期待されていること**

- ① 学校生活を送る上での基盤となる力の育成
- ② 生活集団・学習集団としての基盤の創造
- ③ 学力の向上に寄与
- ④ 学級文化・学校文化の醸成 海外から高い評価

特別活動の学校飼育動物の取組でも大いに深められる

## 学校飼育動物と特別活動

### 児童会活動

### 飼育委員会

### 学級活動

### 係活動

### 生き物係



## 学校飼育動物と特別活動

### 児童会活動

異年齢集団活動を重視し、学校生活の充実と向上に向けて、役割を分担し、協力しながら自主的、実践的な自治的活動に取り組んでいる。

### 飼育委員会

育まれる資質能力

「生命尊重」「優しさ」「協力」「思いやり」  
「責任感」「観察力」「自信」

## 動物の世話は一人で1匹を担当



「生命尊重」

「責任感」

「協力」

朝、8時からの世話



小屋の水洗い

「責任感」





初めまして 新しい飼育委員



飼育委員の指導で、全校の児童もふれあい



モルモットの抱き方の練習



中休みも子どもたちで大賑わい

児童会活動  
自治的活動  
自分たちの手で自分たちの学校を楽しく充実させる  
・当番的活動  
・創造的活動



卒業記念写真



「ふれあいストリート」の日



卒業しても



「観察力」

「自信」

学力向上

世話をしながら  
じっくり観察

育つ豊かな心

不登校気味  
おとなしい

勉強が不得意  
繊細気味






移動教室の朝も

「生命尊重」

「責任感」




笑顔の子どもたち

特別活動のわらい  
特別活動への期待